

平成28年9月放送総局長定例記者会見要旨

○リオパラリンピックの総括（木田放送総局長）

NHKは今回初めて大会期間中の毎日、競技の様態を総合テレビで生中継した。テレビの放送時間は、生中継の74時間を含め、合計133時間あまりと、前回ロンドン大会の約3倍になった。ビデオリサーチの関東地区の世帯視聴率では、開会式が7.8%、閉会式は9.2%、競技を中継した午前7時台から8時台にかけては7%台の日もあり、多くの方にご覧いただけたと思う。

また今回は、オリンピックと同様のインターネットサービスを行った。競技の「ライブストリーミング」と「見逃し」は、それぞれ780時間あまりを配信。「ハイライト動画」は193本を制作。今回の結果を検討し、東京大会ではより多くの皆さんの期待に応えるよう準備を進めていく。

○平成28年度後半期改定について（木田総局長）

改定の時期は、地上波とBSプレミアム、ラジオが10月3日から。BS1は野球シーズン終了後の11月7日から。総合テレビでは、大阪放送局制作の連続テレビ小説「べっぴんさん」をお送りする。水曜夜間には、世に眠っているお宝を探し集めて仮想のミュージアムで特別展を開く「発掘！お宝ガレリア」や、落語に当て振りの芝居をかぶせるエンターテインメント番組「超入門！落語THE MOVIE」をお送りする。Eテレでは、青春コメディの海外ドラマ「100オトナになったらできないこと」、人形劇という手法を使ってゲストから話を聞き出すトークショー「ねほりんぱほりん」を放送する。BS1では、男子プロバスケットボールの新しいリーグ「B. LEAGUE」の公式戦を金曜夜間を中心に随時、中継。また東京オリンピック・パラリンピックに向け「世界はTokyoをめざす」「東京オリパラ団」を月1回程度放送する。BSプレミアムでは、「ザ・プロファイラー～夢と野望の人生～」の第5シリーズを放送する。（詳細は報道資料を参照）

○2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて（木田総局長）

4年後の東京大会に向け、10月10日体育の日に関連番組を集中的に放送する。午後10時からNHKスペシャル「東京五輪 未来に何を残すのか」。大越健介キャスターが、過去の開催地にヒントを求め、アテネ・ロンドン・リオを取材。各界の識者からの提言も交えながら考えていく。Eテレでは、「ハートネットTV」で「“唯一無二”になる～義足のダンサー リオパラリンピックの舞台に挑む～」を放送。またラジオ第1では、「らじらー！inNスポ 注目！2020の主役たち」に、アイドルグループ「Sexy Zone」などが出演する。（詳細は報道資料を参照）

○熊本地震から半年 「NHKスペシャル」など（荒木副総局長）

震度7を観測した熊本地震から来月で半年、「NHKスペシャル」では、熊本地震に関する番組を放送する。10月9日は「あなたの家が危ない～検証・熊本地震“住宅・巨大リスク”の脅威～」。最新の耐震基準を満たしていたにも関わらず、住宅が倒壊・大破していた熊本地震。取材を進めると、地震に弱い住宅が作られてきた実態が明らかになり、耐震基準に地域格差があることもわかってきた。これらのリスクの脅威と対策への手がかりを検証する。10月14日は「活断層の村の苦闘～熊本地震・半年間の記録～」。熊本地震を起こした布田川断層帯の中央に位置する西原村では、全家屋の6割が損壊するなど大きな被害を受けた。住み慣れた土地で暮らし続けるか、活断層から離れた安心できる場所に移り住むか、住民の苦闘の記録を伝える。この他、Eテレ・ハートネットTVや国際放送・NHKワールドTVでも被災地の課題や最新情報をお伝えする。

（詳細は報道資料を参照）

○NHKスペシャル「シリーズ マネー・ワールド 資本主義の未来」(安齋副総局長)

2000年以降、リーマンショックなど世界経済を揺るがす事態が相次ぎ、資本主義はいま、“100年に一度”の転換期を迎えていると言われている。世界の経済はなぜ、揺らぎ始めたのか？ 私たちを取り巻くさまざまな経済の問題に「爆笑問題」の二人が鋭く切り込む新たなシリーズを10月16日から3回にわたりお届けする。

第1集のテーマは「経済成長」。産業革命以降、右肩上がりだった先進国の経済が、まるで成長が止まってしまったかのように、長い停滞の時期を迎えている。世界最前線の現場と、知られざる経済の歴史を探究しながら成長にブレーキがかかった原因を探っていく。一方で、革命的な成長を遂げている「ユニコーン企業」など、これからの成長の可能性も紹介する。第2集と第3集は、国家と企業の役割や世界で課題となっている格差について考える。

(詳細は報道資料を参照)

○10/2<BS1> BS1スペシャル「シリーズ メガプロジェクト 開拓者たちの決断」

(安齋副総局長)

東京オリンピック開催まであと4年。そうした新しい地平に挑むとき、私たちは何を大切にすべきなのか？ そのヒントを求めて、半世紀前、巨大なプロジェクトに挑戦したパイオニアたちの闘いを、再現ドラマも交えて描く。

第1回は、新幹線の生みの親、元国鉄総裁の十河信二さんの決断を取り上げる。国鉄内部の官僚的組織、道路族の政治家たちなど、数々の反対勢力を乗り越えた原動力は何だったのか。元国鉄技術者の証言や当時の秘書の記録などをもとに迫る。第2回は、大阪万博のシンボル“太陽の塔”をめぐる芸術家・岡本太郎さんとSF作家・小松左京さんの決断。その衝突から想定外の芸術が生まれるなどした、二人のドラマを描く。

(詳細は報道資料を参照)

○10/10<Eテレ>「香川照之の昆虫すごいぜ！～トノサマバッタ～」(安齋副総局長)

俳優の香川照之さんを案内役に昆虫の魅力を伝える番組を放送する。香川さんのもう1つの知られざる素顔は「昆虫マニア」で、本能のままにまっすぐ生きる昆虫の姿にいつも生きるヒントをもらっているという。テーマはトノサマバッタ。香川さんは“カマキリ先生”にふんし、多摩川河川敷で捕獲が難しいトノサマバッタと格闘し、クレーンにつり下げられての大ジャンプを体感し、そのすごさを講義する。

(詳細は報道資料を参照)